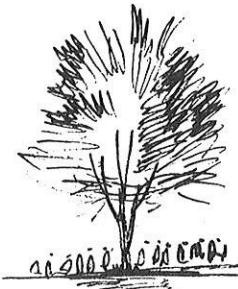


光の子



No.108 2004. 5. 1

●今年の聖句 悪を持って悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。 (ペテロの手紙Ⅰ：3：9)



「野に出て」

挿絵・中島英子

「
風
光
る」

ひとりづつみな光の子風光る

風光る子どもの家に野に空に

風光るべそをかく子に笑ふ子に

泣くたびに生まれ変はる子風光る

風光る天にもひとり光の子

風光る声のつばさの行き交へば

風光る海へひろがる利根の空

落合 水尾 (『浮野』主宰)

暖冬だと思つたこの冬も三月には真冬のような寒さの日が一時的にぶり返し、寒さが肌に応える日が何日か続いた。そんな中でも確実に春の花は次から次と咲き、今年も梅の花、桃の花の開花は見事だつた。梅、桃と来ると次があるのは二月に見事な桜の満開を堪能した。

2月の半ば、六日間、沖縄に行つて来た。高二の娘が今年からバレーボールとバスケットボールの代表選手になり、昨年秋から遠征してインターナショナルスクール同士の東アジア大会に参加し始めた。昨年十月のバレーの大会には私はスケジュールが合わなくて同

2つの文化に生きる

41

日本キリスト教団東大宮教会
バーガー 京子

娘達の大会はアメリカ軍基地内の高校の体育館で行われた。その宿泊施設で私はもうひとりの保護者とルームメイトになり、娘たちや他の学校（韓国、フィリピン、グアム等から來ていた）の生徒たちと同じ宿泊施設に泊まり、久しぶりにぎやかな女子寮の生活を楽しませてもらつた。そして、昼間は試合の応援に声をからし、他国から來ているチームのレベルの高い試合の数々も観覧させていた

佐喜眞美術館を訪れた。そこの館長さんがその美術館周辺の航空写真を見せてくださった。広々としたアメリカ軍基地のまわりにへばりつくように建っている小さな家々。美術館を建てた佐喜眞さんの家も以前はかなりの土地を所有していたが基地が出来たことで土地が切り離されてしまい、敷地内に建てた美術館から家まで直線距離にすればたいした距離ではないのだが、毎朝車で基地のまわりをぐるりとまわって出勤しているとの

行できなかつたが、二月は教会関係の仕事等いろいろな人に用事をお願ひしてなんとかこの夢が実現した。「夢」と書いてしまふとちょっとオーバーなようだが、今まで私はアメリカには両手では数えきれない程行つてゐるが、日本国内というと北は仙台、南は大阪より先には行つたことがなかつたからだ。とはいつても私には日曜日を2回挟んでのこの大会は最初から最後までの参加は不可能だつただめ、結局、私一人、後から追い掛けて行き、又、皆より先に帰つて来たので往復飛行機の中は一人旅という形になつた。一人旅なんて本当に何十年ぶりだつただろうか自身の時以来であつた。

行できなかつたが、二月は教会関係の仕事等いろいろな人に用事をお願ひしてなんとかこの夢が実現した。「夢」と書いてしまふとちょっとオーバーなようだが、今まで私はアメリカには両手では数えきれない程行つてゐるが、日本国内というと北は仙台、南は大阪より先には行つたことがなかつたからだ。とはいつても私には日曜日を2回挟んでこの大会は最初から最後までの参加は不可能だつたため、結局、私一人、後から追い掛けて行き、又、皆より先に帰つて来たので往復飛行機の中は一人旅という形になつた。一人旅なんて本当に何十年ぶりだつただろうか独身の時以来であつた。

佐喜眞美術館を訪れた。そこの館長さんがその美術館周辺の航空写真を見てくださった。広々としたアメリカ軍基地のまわりにへばりつくように建っている小さな家々。美術館を建てた佐喜眞さんの家も以前はかなりの土地を所有していたが基地が出来たことで土地が切り離されてしまい、敷地内に建てた美術館から家まで直線距離にすればたいした距離ではないのだが、毎朝車で基地のまわりをぐるりとまわって出勤しているとの

ところで基地の中での生活はアメリカそのものである。道は広いし、一面芝生の町並み、ちょっとしたショッピングセンターはアメリカをそのまま持つて来たようで、店にはアメリカに行かないと言えないものばかりがならべてあった。勿論、税金は一銭もつかない。娘たちはせっかく沖縄に行つたのに毎日試合で体育館と宿泊施設との往復で日が暮れ、ファーストフードを中心としたアメリカの食事をしていた。沖縄料理や日本料理は基地の門を出ないと口にはできなない。私は期間中、一日半だけ基地を離れ、丸一日は観光バスに乗り、沖縄の中部北部地方を見てまわり、半日は沖縄に住む宣教師の友人と

うに建てられている日本の家々。日本唯一の地上戦が行われたという沖縄の苦しい歴史も知ることは大切である。しかし、私は今回、基地と基地に挟まれながら生活している沖縄を外と中から見ることができ、これが今の沖縄なのだと思い知らされた。日本で一番早く桜の咲く土地で大変貴重な経験をしてきた。

ことだった。そして美術館は基地を囲む金網のすぐ横に本当にへばりつくように建てられていた。戦争経験者の証言をもとにして描かれた丸木さんの絵を拝見できたことも感謝であつた。「この沖縄の基地がなければ、ベトナム戦争はあんなに長引いていたと言われています。」と言つた案内の女性の言葉が心に残つた。

初めての沖縄でそのほとんどをアメリカ軍基地の中で過ごした。沢山の基地が集まっている沖縄の中では広々とした敷地を当たり前のように所有している軍関係者たち。そして、一歩外に出ると所狭しと重なる上

田中春女理事を偲んで

施設長 菅原哲男



児童養護施設光の子どもの家がその設立を準備し始めた時から、田中春女理事長は重要な働きと共に関わって下さった。光の子どもの家の歴史を語る時、決して欠かしてはならない重要な人物のお一人なのである。

公にされた時、総力での計画を潰しかかつた私たちと関わりの深い社会福祉法人があつた。その法人の中心的な人々たちは、埼玉県の担当課、あるいは当時の厚生省の担当部所などに、代議士や心底を通じたものではなく利害が一致した宣

トラブルが持ち上がった。そのトラブルはたくさんの方々からの善意を寄せ集めて数名の法定外職員を確保してきていてこの法人の死命を制し兼ねないことでまたあつた。

田中郁夫が光の子どもの家発足を起因させた三名の中にいたことからである。理想や情熱だけで雲をつかむような計画で、当初は、田中春女氏に「うちの郁ちゃんを変な道に誘わないで欲しい」と、抗議のお電話数度いたいたものである。しかし、お会いしてことの次第を「謳明しご協力をお願いしたところ「それは大変重要なことだ」と賛意を示され、自ら設立準備会に参加し、役員として関わつてくださつたのであつた。

田中春女氏は、決断すると揺らぐことのない信念の人だったのである。

幾度かの重大な困難な時に、決してたじろがれなかつた。

たとえば、この計画が何とか形をなして、当時の厚生省から認可の内示があり

何回かの交渉を繰り返した。とうとうが頓挫しそうになつたのである。
最後に、担当課長氏に、「もういいです、お借りしません。その代わり貸し出せないという理由を明らかにした文書をいただきます。」と、福島前理事長などと同席していた田中春女理事が立ち上がって申し渡すよう言つたのである。そうして全員が席を蹴つて退席してきた。

それから数日後に、社会事業振興会から借り入れる予定だった金額が田中春女理事の名義で法人設立準備会の口座に振り込まれてきたのである。これがなければ児童養護施設『光の子どもの家』は存することができなかつたのである。何よりも子どもの利益を第一義に施設運営をすすめることで、時には職員間の

者や他の職員が抱きとめて先生に予防注射をしていたので子どもたちは、春女先生を認めるに、にわかに泣きながら逃げ回ることもあった。そんな時、先生は、泣きわめく子どもたちを見ながら、こやかに追いかけて素早く注射針を腕に差し込むのだった。

不思議なことに先生の長男の郁夫君が、母君によつて注射針を差し込まれるのを今まで一度も見たことがないのである。多分、今頃先生は、「郁夫を甘やかさ過ぎたかな」と天国で悔やんでおられるだろうと思うことしきりである。

祈、平安。

その田中春女理事がこの二月一日に召された。私たちは一昨年福島歟前理事長、昨年九月渡部かずき君と連続する悲しみを抱えてこの間新年度の準備にいそしんできた。

田中春女理事は東京杉並区永福町に開業のキリスト者内科医であつた。彼女と光の子どもの家の関わりは、彼女の長男田中郁夫が光の子どもの家発足を起因させた三名の中にいたことからである。

理想や情熱だけで雲をつかむような計画で、当初は、田中春女氏に「うちの郁ちゃんを変な道に誘わないで欲しい」と、抗議のお電話数度いただいたものである。しかし、お会いしてことの次第をご説明しご協力を願いしたところ、「それは大変重要なことだ」と賛意を示され、自ら設立準備会に参加し、役員として関わつてくださつたのであつた。

田中春女氏は、決断すると搖らぐことのない信念の人だったので。

幾度かの重大な困難な時に、決してたじろがれなかつた。

たとえば、この計画が何とか形をなし、当時の厚生省から認可の内示があり

何回かの交渉を繰り返した。とうとうが頓挫しそうになつたのである。
最後に、担当課長氏に、「もういいです、お借りしません。その代わり貸し出せないという理由を明らかにした文書をいただきます。」と、福島前理事長などと同席していた田中春女理事が立ち上がって申し渡すよう言つたのである。そうして全員が席を蹴つて退席してきた。

それから数日後に、社会事業振興会から借り入れる予定だった金額が田中春女理事の名義で法人設立準備会の口座に振り込まれてきたのである。これがなければ児童養護施設『光の子どもの家』は存することができなかつたのである。何よりも子どもの利益を第一義に施設運営をすすめることで、時には職員間の

者や他の職員が抱きとめて先生に予防注射をしていたので子どもたちは、春女先生を認めるに、にわかに泣きながら逃げ回ることもあった。そんな時、先生は、泣きわめく子どもたちを見ながら、こやかに追いかけて素早く注射針を腕に差し込むのだった。

不思議なことに先生の長男の郁夫君が、母君によつて注射針を差し込まれるのを今まで一度も見たことがないのである。多分、今頃先生は、「郁夫を甘やかさ過ぎたかな」と天国で悔やんでおられるだろうと思うことしきりである。

祈、平安。

三寒四温とは、昔人はよく自然を観、そして的確に表現したものだと思う。春盛りの気温かと思えば、ここ三、四日は冬に逆戻りしたような感じで、昨日などは、小路では降った雪が解けずに白く残つていい。でも、寒くなつてもそれは長続きせず、少しづつ春に向つていくことを予感できるから、寒さも冬のそれのようにつらくはないのである。

学者もどきのつぶやき^⑯
「早春のひととき」に
山形大学学長 仙道 富士郎

私の家の東の道路が、拡張され整備されることになつて、今、その工事が続けられている。そのために、ちょっと車で出るにも、少し遠回りをしなければならない。多少の遠回りはかまわないので、心底喜ぶことが出来ないのが、多くの人々の実感ではないだろうか。「今日は自爆テロ何件、死傷者何名」と新聞・テレビは言葉通り毎日のように報じ、私達も事実としてそれを確認することに次第に馴れてきたのではあるまい。

しかし、誤解を恐れずに言えば、私は爆弾をかかえて自爆するテロリストの側に立つて物事を考えたことがあるだろうか。死がこれまで人間などいない。死の恐怖を乗り越えて自爆する青年の心を、そこまで到らせるのは何なのかを考えると、心は暗い方向へと引き込まれていく。

いわゆる社会主義社会の崩壊によつて、世界の根元的な対立は消え去つたかに見えたときもある。しかし、人間はどこまでも罪深く進化してしまつたとしか言いようがない。舌の根も乾かぬうちに、今度は九・一一のニューヨークの惨事をその入り口とする世界的なテロリズムの到来である。憎しみの連鎖は複雑に絡みあい、しかし確実にその鎖の長さを増しながら、地球全体を縛り上げていく。はじめは苦悶の表情を浮かべていた地球も次第に怒りに、ついには憎しみの惑星と化するごとくである。人間が罪深いのは、地球上で最も進化の進んだと言われているヒトの生業がこの憎しみの惑星を

近い目に見るさが見えないとき、人はどうしても憂鬱になつてしまふ。いまこのときに春の到来は嬉しくあつても、心底喜ぶことが出来ないのが、多くの人々の実感ではないだろうか。【今日は自爆テロ何件、死傷者何名】と新聞・テレビは言葉通り毎日のように報じ、私達も事実としてそれを確認することに次第に馴れてきたのではあるまい。

しかし、誤解を恐れずに言えば、私は爆弾をかかえて自爆するテロリストの側に立つて物事を考えたことがあるだろうか。死がこれまで人間などいない。死の恐怖を乗り越えて自爆する青年の心を、そこまで到らせるのは何なのかを考えると、心は暗い方向へと引き込まれていく。

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は



鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

鳥インフルエンザウイルスが猛威をふるつて、はつきりした証拠があるわけではなく、すべて憶測なので、断定的なことを述べることは厳に慎まなければならぬ。昨年の冬はひどい、今年は

続・光の子らしく

岩崎 真理子

No.108

春女先生のこと

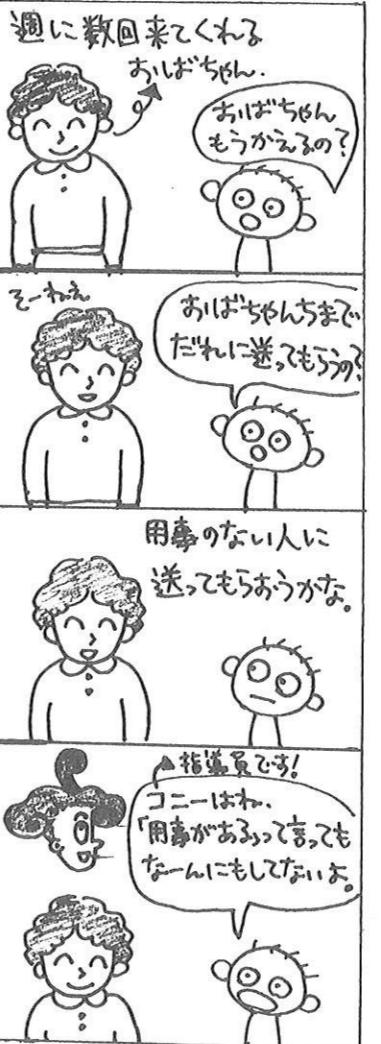
の当時は、やけにほつとしたといふ印象しかありませんでした。

また一方で、先生は楽しむといふところにも積極的だったようにお見受けしました。他者を不快にした。「大丈夫よ」でも「正常です」でもなく、微笑むでもなく、「丁度いい」と一言。今にして思えば、あのしつかりとした声と説得力は、先生の仕事に対する真摯さの他の何ものでもないのでしょうかが、あ

う印象しかありませんでした。

春女先生と初めて言葉を交わしたのは、ここで働き始めて最初の健康診断だったと思います。血圧を測つて頂いたとき、その正常値がどのくらいかも知らなかつた私は、しばし無言の先生に心配で「駄目ですか?」と尋ねたところ、私の目をしつかり見つめ返し「丁度いい」と力強く断言されました。「大丈夫よ」でも「正常です」

でもなく、微笑むでもなく、「丁度いい」と一言。今にして思えば、あのしつかりとした声と説得力は、先生の仕事に対する真摯さの他の何ものでもないのでしょうかが、あ



家族に関わる

菅原 哲男

社会的養育の課題は基本的に家庭的家族問題である。この年度から全国の児童養護施設五五〇余にファミリーケースワーカーが配置された。養育の困難となつた家庭から引き離されて見も知らない者たちと暮らさなければならぬ子どもたちと関わり始めた年から、児童養護施設の問題は優れて家族問題であると考え、何の知識も技術も持たずに入日まで関わってきた。

そんな家族と法律的な根拠により仕事として取り組むことを責務とされていた児童相談所職員からの厳しい批判や難詰などを受けながら、子どもにとってのあるべき家族の関わりを求めてきたのである。関わりに法律的根拠はなかつた。しかし、「子どもと直接関わること」が私たちの「はたらき」であり、その子どもたちを出来るだけまっすぐに育てることが私たちの責務である。そんな関わりが、これまでの児童養護施設の状況の中での貧しい人的資源だけでは充分には明白なのである。子どもたちにとって、いや、人に

とつて生涯を規定し続ける家族や親族の存在は無視できるほどの影響を持つものではあり得ないのである。この国に生まれ出でた者にとって家族はほとんどその人生に関わるものなのである。

母親の胎に宿つた時からその母親との関わりの中で人は育ち生まれ成長していくのである。胎内の母親との相互関係から始まり、出産という母子双方の生死に関わる状況を共有しながら人は生まれる。

生まれる、という言葉は受動態とも能動態とも区別できない。「生まれる」とは、レルだから受動態とも説明される。しかし、意志的に「生まれる」と言うことも出来るのである。どちらかに区分けしなければならないことでもないが、何ともやもやした状況には違いない。付度という言葉がある。卵の中で孵化される時を待つ卵の中のいのちが、生まれ出ることを抱いている親鳥に内側から意を送信する。その送信に抱いている親鳥がほとんど同時にそれに呼応して卵の殻をくちばしでつつき割る

ことで、雛鳥が世に生まれ出するのである。これは雄鳥には不可思議なことなのである。

その根拠をさかのぼると雄鳥と母親鳥となつた雌鳥が愛し合つたといふ事実が原点にある。

この雄鳥と雌鳥と比べると、人は通常の場合血のつながりが無いからこそ、家族が形成される。このようにして形成された家族はいつでも幸せな状態を維持しているわけではなく。

この国では、このような家族の集合である親族や一族が群れとしてその集団を守り発展させてきた長い歴史を持つのである。だから、この家族や親族というものは、狡猾に軍需産業やそれに関わる政治屋どもが利用して先の世界大戦に突き進んでいったほどのエネルギーを持つものなのである。

この家族から虐待などという禍々しい表現でしかできないような取り扱いを受けて追放された子どもたちの家族に関わるということは、その関わりが児童養護施設の責務となるのである。(この項続く)

解を考え導き出さなければと皆で思ひ悩んでいたときがありました。「祈ることしかできないじやありませんか。ねえ」と、春女先生に切実さのこもつた目で訴えかけられ、人知の、しかもかなり低いレベルで悪あがきしていました。

私が光の子どもの家から採用通知を頂き、期待やら不安やらで胃守っていた菅原施設長や理事を始めて下さったものがそれなのです。わかつたもののがそれなのです。

私は光の子どもの家から採用通知を頂き、期待やら不安やらで胃守っていた菅原施設長や理事を始めて下さったものがそれなのです。

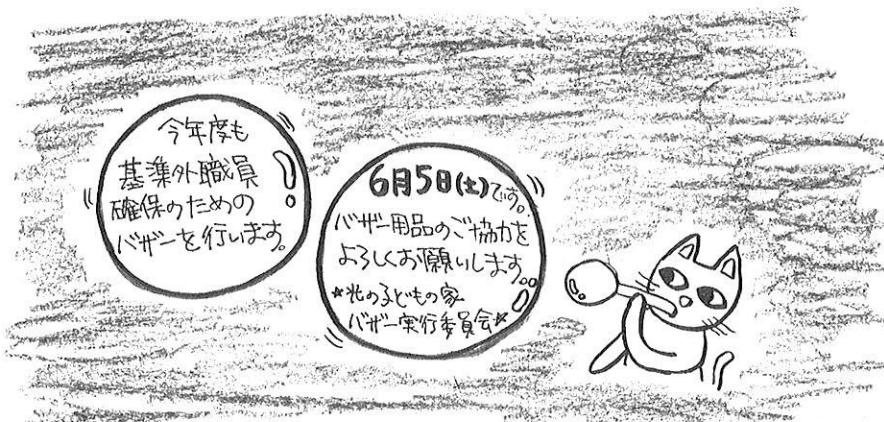
一度だけ、私も春女先生が「皆さんで祈りましょうよ。」とおつし語り、祈り、励ましてくれたのだと最初の頃の職員会議で菅原施設長が話していました。

一度だけ、私も春女先生が「皆さんで祈りましょうよ。」とおつし語り、祈り、励ましてくれたのだと最初の頃の職員会議で菅原施設長が話していました。

「祈ることしか:」という春女先生の言葉やあのときの低いけれども強い視線。それは、静かに強く、私をあの新地だった二十年前に引き戻してくれるのです。安易に「祈るしか:」と私などが發してはいけないだろうという思いと、驕ることのないようにと願わずにいるらしい思いと共に:。

ご冥福をお祈りします

「祈ることしか:」という春女先生の言葉やあのときの低いけれども強い視線。それは、静かに強く、私をあの新地だった二十年前に引き戻してくれるのです。安易に「祈るしか:」と私などが發してはいけないだろうという思いと、驕ることのないようにと願わずにいるらしい思いと共に:。



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

12月1日▶平成16年3月末日

2003年12月

- 幼児9名 小学生13名 中学生6名 高校生8名 措置外2名
計37名
- 7日 第2アドベント
 - 8日 冬休みの個別計画 家族の色が濃くなる季節、子ども達ひとり一人の心を想い様々なプログラムを
 - 11日 田村理容店毎月の散髪ご奉仕に感謝／家庭訪問実施
正月帰省の調整と近況報告
 - 12日 岡田龍治入所 池田担当
 - 13日 第72回理事会／幼稚園表現発表会／萌季一時帰国
 - 14日 第3アドベント
 - 15日 原道小学校との連絡会子どもの成長、課題を確認
 - 21日 第4アドベント
 - 24日 大利根中学校との連絡会
クリスマス夕食会・キャンドルサービス
 - 25日 クリスマス祝会・ペーパージェント かずきと共に…
 - 28日 もちつきかけ声を背に小さな体で杵を力一杯
 - 30日 正月帰省開始年々帰省可能な子が減少／卒園生帰省
- 2004年 1月
- 1日 元旦礼拝、食事会 全職員が新年を子どもと迎える
 - 正月帰省より帰宅
 - 5日 正月気分をぶつとばして3学期も頑張ろう会
 - 26日 インフルエンザ大流行／職員総括開始自身を見つめ、子どもへの関わりをより良いものにと願い徹底的に

2月

- 1日 田中春女理事死去 通夜 これまでのご尽力を思い
ご冥福を心よりお祈りします
 - 2日 田中春女理事葬儀
 - 9日 加藤七菜入所 池田担当・白鳥勇氣入所 服部担当
 - 15日 自立支援計画総括開始次年度へ向けて関わりの反省
 - 19日 御厨葵入所 伊藤担当
 - 27日 高校入試 侑子受験 不安、緊張を胸に会場へ
- 3月
- 5日 侑子高校合格お祝い夕食会笑顔で合格報告
 - 8日 加賀美ゼミ 5名来訪見学／原道小学校との連絡会
 - 9日 高校卒業式 福子
 - 12日 高校卒業式 環
 - 13日 第7回出発の会／幼稚園作品展
 - 16日 中学校卒業式 侑子
 - 17日 自立支援計画開始
 - 23日 小学校卒業式 佳美、憲也、龍治
 - 27日 第73回理事会／幼稚園卒園式 和哉、里奈
 - 29日 春休み個別計画／第19回子ども祭り代表者会議
 - 物品ご寄贈者 二本榎幼稚園 栗橋キリスト教会 聖学院大学
十文字女子短期大学 はっかほっか亭 ステラ（株） パーラ
ーミマス はむこ会 仙道清太郎 菅野圭樹 須藤保 宇並洋
子 長沼邦子 大塚東一 江森百合子 戸田幸男 松本明子
若柳兆慶 若柳慶雅 横村スミ子 他多数の各位様



☆新年度を定員を二名超える三八名と
高校を卒業して未だ社会に出せない者
たちなど措置外四名を含み四二名でス
タートしました☆この年度もただごと
では済まないような予感が光の子ども
の家を支配しています。☆それでも、
最も重い荷を背負わされた子どもたち
のために役立ちたいとの願いをこんな
世の中でも持つ稀な豊かな信条の働き
人と共に暮らしをつくることが出来る
ことを幸いに思います☆ボランタリズム
が全てだった戦前と、生存を権利と
して規定した憲法によって保障された
子どもたちの暮らしは確実に向上了
きました☆そして今、ボランタリズム
は雲霞と消え果てようとする競争原理
・市場原理に曝される恐ろしさが具体
的に見え始めています☆人として人と
関わることの原点を見つめながら最も
困難な選択肢を選ぶ勇気と決意をもう
一度確認しながらこの年度を始めてい
ます☆豊かな表情に変容する子どもた
ちと自ら痛みお励ましを惜しまない皆
さまとの共なる労を喜びます。（哲）